

一カ



第 85 回アメリカ修養会

第 85 回アメリカ修養会は 2025 年 6 月 15 日（日）から 7 月 12 日（土）まで開講され、英語クラス 6 名の方が修了しました。期間中、講師やキッチン当番をおつとめくださった方々、誠にありがとうございました。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.932



TenrikyoAmericaCanada.org

JULY
2025



つらつらせんがく 熟々浅学



— 隣の「机」 —

今月 12 日に第 85 回アメリカ修養会を無事に終えさせていただくことができました。講師を始め、キッチン当番などに携わってくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、今月末には、本部にてこどもおぢばがえりが開催されます。また、来月 16 日には少年会アメリカ団のおつとめまなび総会がアメリカ伝道庁にて行われます。どちらも将来を担う子供たちが成人するために大切な行事です。一人でも多くの少年会員が参加してくれることを願っています。また、8 月 30 日と 31 日には、原典に関する教理勉強会を開催致します。日本から講師を招いての勉強会です。このような勉強会を毎年開催することは難しいですし、交通費の助成もありますので、この貴重な機会を是非逃さずに受講していただきたいと切に願います。

さて、近年では、入社時に「個人の机」が割り当てられない企業も存在すると聞きます。これは、配属された部署内のどの机（テーブル）を使用しても業務を行える、という形態の企業があることを意味します。しかし、依然として事務職の部署に配属された社員には、個々に事務机が割り当てられているケースが多数を占めるのではないのでしょうか。

これは私の古いイメージかもしれませんが、現在でも、各社員に割り当てられた複数の机が一塊となって「島」を形成している職場は少なくないのではないのでしょうか。つまり、自分の机の両隣や正面、さらにその両隣にも他の社員の机があるという配置です。例えば、自分の机と両隣、そして自分の机の正面に 1 台、その正面の机の両隣にも机があれば、合計 6 台の机で一つの「島」を形成することになります。

このような「島のイメージ」を持って、新たに伝道庁に着任した青年や女子青年に、私は次のような話をすることがあります。

着任して間もない頃は、割り当てられた仕事を

こなすだけで精一杯だと思う。それは、新入社員にとって自分の机の上が全てという状態。両隣に座る人がどんな仕事をしているのか分からないし、意識も向かない、あるいは関心がないのかもしれない。この状態にあるのは心に余裕がないためで、それは仕方のないことだと思う。しかし、その状態にいつまでも留まっていたはいけない。いずれ両隣の同僚がどのような仕事をしているのか理解できるようになることが大切。近い将来、是非そうなってほしい。そして、その次のステップとして、自分の正面に座る同僚が何をしているのか、さらにその同僚の両隣の人が何をしているのかも把握できるようになってほしい。つまり、6 人で形成される「島」の同僚たちが何をしているのか見えるような人になってもらいたい。そして、協働して仕事に取り組める人に成人してほしいと願っている。

このような例え話を使って、私は周囲にも目を向け、協調性を育み、協働できるようになることの重要性を伝えていきます。

もちろん、6 人の「島」で何が起きているかだけでなく、その次には他の「島」で何が行われているのか、さらにフロア全体では何が行われているのか、そして所属している部署が何を指しているのか、ひいては会社全体として何に取り組み、どのような目標に向かっていくのかを知ることも大切です。そして、ただ知るだけでなく、同じ目標に向かって協働し、その目標を達成できるように会社の一員として働くことが重要だと考えています。

伝道庁は会社ではありませんが、教友の皆様と同じように「陽気ぐらし」を目指して活動していきますので、このようなことは大切です。

さて、自分の両隣の人たちや「島」全体で、組織として何が行われているのかを知り、協働することはもちろん大切です。しかし同時に、自分の「机」を広げる、つまり許容量を大きくすることも

重要です。

ここで言う「机」を大きくするとは、物理的に机上を広くするという意味ではなく、多くの仕事をこなせるだけのキャパシティを増やすという意味です。

この許容量を増やすことは、パソコンのメモリーを増やすことと同様に考えていただければと思います。パソコンのメモリーを増強すると、一度に多くの作業を支障なくこなせるようになります。それと同じことを意味しているのです。

新人の頃は、一つの仕事を任されると手一杯になり、他の仕事にまで手が回らないこともあるでしょう。しかし、経験を積むにつれて、複数の仕事を同時に並行して進められるようになります。これが「机が大きくなった状態」、すなわち心の余裕が生まれ、以前よりも成人した姿と言えるでしょう。

このような許容量の大きな人間になるためには、様々な経験を積むことが必要です。まずは与えられた仕事をしっかりとこなすこと。与えられた仕事を全うすれば、それだけ力が身につきます。そして、そうなれば心に余裕が生まれ、自分の「机」だけでなく、周囲の「机」にも目を配る力を身につけることができるようになります。また、同時に他の仕事も担えるようになります。それができれば、より大きな仕事を任せてもらえるようになるでしょう。ですから、様々な仕事を同時にこなせるようになるために、自分の「机」の許容量を広げることも大切です。

「私にはできない」と諦めてしまえば、そこで周囲の「机」を見ることも、「机」の許容量を大きくすることもできなくなります。「自分にはできない」という考え方は、そこで成長を止めてしまうでしょう。お道では「成人が止まる」と表現できるのではないのでしょうか。

自分以外の周囲の「机」に目を向けられるようになれば、周囲に心を掛けることができるようになります。また、自分の許容量を広げられると、一度に多くの人に手を差し伸べることができるようになるでしょう。それは、ひいては大きな心を育むことにも繋がると思うのです。

おさしづに、

…大きい心を持って通れば大きい成る、小さい心を持って通れば小そうなる。親が怒って子供はどうして育つ。皆、をやの代りをするのや。満足させて連れて通るが親の役や。皆、満足させて、元のぢばや親里やと言うて、満足して帰るのやで。

どんな事も談示して満足さすよう。

(おさしづ、明治21年7月7日)とありますように、人を育てる上で大きな心を持つことが必要不可欠だと思います。それも「皆、満足させて、元のぢばや親里やと言うて、満足して帰るのやで」となってもらうためには、どのようなことがあっても受け止められるだけの大きな心、つまり、懐の深い心が必要です。それによって人々を満足させることができるようになると思うのです。そのような心になれば、救済を望んでいる人々は、少なくとも安堵してくれるのではないのでしょうか。

子供が親の膝に乗って甘えるのは、その子供が安心できる場所を確保したいがための行動であると聞きます。

それと同じように、おたすけの際、安心して身を寄せられるような大きくて温かい心をおたすけ人が持っていれば、おたすけを願っている人は安心できるはずです。身上や事情で不安定になっている心を安定させられるような、広くて深く温かい心、懐をおたすけ人が持っていれば、助けを願っている人は安心して身を委ねられるでしょう。

教祖は、どのようなことでも受け止められる、広くて深く温かいお心、懐をお持ちだったのではないのでしょうか。だからこそ、先人たちは教祖のもとへ足を運ばれたのだと思います。つまり、教祖の温かい懐に抱かれて安心したいがために、教祖のもとへ行かれたのではないのでしょうか。先人たちは、教祖にお目にかかれれば、あれも言おう、これも言おうと、おぢばへ帰られました。しかし、教祖の御前に出た時には、そのような心の蟠（わだかま）りが全て霧消してしまったという話があります。

このような教祖のような心を持つことが、おたすけの第一歩でもあるように感じます。まずは、おたすけを願う人に深い安心感を与えられることが肝心なのではないのでしょうか。

そのためには、自分の「机」の周囲を見渡せるような心、大きな許容量を持った広い心、懐の深い心を持てるように、日々、努力を積み重ねることが大切なのではないのでしょうか。

深谷 洋

立教188年6月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、世界一れつの人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの深い思召のまにまに、この世人間をお創りください、旬刻限の到来と共に、教祖をやしるにこの世の表に現れて、たすけ一条の道をお啓きくださいました御厚恩の程は、誠に勿体なく有難い極みに存じます。私共は、日々頂戴する御守護に感謝しつつ、世界にお見せくださるさまざまな事柄に対しても親心を求めて、たすけの御用に励ませていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の六月の御祭りを執り行う目出度い日柄に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、管内各地よりよふぼく、信者一同が参集して、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかに勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、アメリカ青年会総会を滞りなく開催させていただくことができまして、誠に有難うございました。あらきとうりようとしての自覚に目覚め、アメリカ青年会会員一同が一手一つになって、世界たすけの御用の上に活躍できるよふぼくへと、更なる成人の道を歩めますよう、お導きの程をお願い申し上げます。

又、本日より来月十二日まで第八十五回アメリカ修養会を開講しますが、各修養会生が御教えを心に治めて、世界たすけのできるよふぼくに成人しますよう、お育ての程をお願い申し上げます。

更には又、今月二十日より二十二日まで、少年会アメリカ団のキャンプが行われますが、無事無難にお連れ通りくださいますようお願い申し上げます。

私共は、よふぼくとしての使命を再確認して、教祖百四十年祭に向けて、更なる心の成人に励み、世界一れつの人々が互いにたすけ合って暮らす陽気ぐらし世界の実現を目指して、日々勇んでつとめさせていただきます所存でございます。何卒、親神様には、この真実の心をお受け取りくださいます、届かぬ点は幾重にもお仕込みくださり、一日でも早く、諍いのない世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

6 月月次祭神殿講話

ガーデナ教会長
渡邊 京子

本日は祭典講話の御命を頂きましたので、届きませんが勤めさせて頂きます。つたないお話で申し訳ありませんが、しばらくの間お聞き取り下さいますようお願い致します。

前回祭典講話を勤めさせて頂いたのは丁度4年前でコロナが蔓延している時でしたので、伝道庁でビデオ録画をして頂き、インターネットを介してライブ配信されました。今回こうして皆さんの前で話をさせて頂ける事はなんと有難い事かと思わせて頂きます。前回お話させて頂いたことと重複する事もあるかと思いますがご了承下さい。

早いもので私がガーデナ教会の四代会長に就任して今年の8月で11年になります。教祖130年祭に向かう三年千日の2年目の年に、会長不在が続いていた教会の会長として手を挙げさせて頂きました。振り返れば大きなことは何もできていませんが、信者さん達に支えられながら、なんとかつとめさせて頂いております。私が着任するまでの5年半の会長不在の間、教会を守ってつとめて下さった熱心な信者さんがたのお陰で、有難くも今私に繋がっています。

私は自らの判断で、ガーデナ教会の会長として来させて頂いたと思っておりましたが、よくよく考えると、全ては、親神様・教祖に導かれるままに、ここに来るべく道が敷かれていたということに気付きました。今日はその理由をいくつかお話させて頂きたいと思えます。

英会話は今も苦手ですが、子供の頃から英語が好きでした。高校生の時、当時会長をし



ておりました父が、「部内教会の部内になるガーデナ教会に英語の勉強をしに行ってみないか？」と提案してくれました。私は少し期待をしていたのですが、その頃は村中忠初代会長様の時で、なぜか理由はわかりませんが、その話は立ち消えになってしまいました。その教会の会長としていずれ行くことになろうとは、その時は全く知るよしもありませんでした。ガーデナ教会の存在を教えてくれた父は、二代会長様の時にガーデナ教会を訪れています。

それから約30年後、2002年のアメリカ天理柔道40周年の時には、柔道をしておりました兄の誘いで、私も同行させて頂き、1週間ほど伝道庁に宿泊させて頂きました。滞在期間中、ガーデナ教会に参拝させて頂き、当時の三代会長様とご家族にお会いしています。まさかその12年後に次期会長としてここに来るなど、その時も思ってもいませんでした。

その後、教祖130年祭の論達第三号が発布されたころ、私のいんねんから事情で悩んでおりましたので、自教会に行き、私の甥であ

る会長様に相談しましたところ、会長様より「3カ月の修養科に入るか当時会長不在のガーデナ教会に3カ月でも留守番に行ってはどうか？」と提案を頂きました。考えた末、2回目になります。修養科を選択しました。

おぢの理は本当に鮮やかで、3か月間、何事も無かったかのように心穏やかに過ごすことが出来ました。ところが家に戻ると、又いんねんが出てきて、にをいがけに出ても笑顔になれず、暗い気持ちで早々に帰って来るといふ始末です。なかなかいんねんの自覚やたんのうがでできずにいました。

このままではダメだ。何かもっと大きな神様の御用をさせて頂かなければと考えていた時、ロサンゼルスに住む弟から、「会長様が論達第三号発布のご巡教でガーデナ教会に来られるけど、京子姉さんが継げたらいいのにね」とメールが届きました。

私は雷に打たれたように（まだ打たれたことはありませんが）、「ああ私でもさせて頂けるなら、困っておられる信者さん達のためにも、また私のいんねん切り替えとご恩報じのためにも、進んで行かせて頂きたい」と思い、すぐに会長様に電話をしました。

会長様は私の突然の申し出にびっくりされると共に、大変喜んで下さり、早速海外部へ問い合わせをして下さいました。お陰様で順調に段取りが進められ、深谷洋庁長先生にも大変お世話になり、有難くも2014年に教祖からお許しを頂き、会長に就任させて頂きました。

おさしづに、

「事情なければ心が定まらん」

明治20年1月13日

とありますが、まさにお言葉通り、事情があったお陰で心が定まりました。

背中を押してくれた弟は、私が高校生の頃よく聞いていた洋楽の歌に影響を受けてアメリカに行きたいと思うようになったそうです。実際に20代でロサンゼルスに来て40年以上住み、現在ガーデナ教会の月次祭にも毎月参

拝してくれて私を助けてくれています。神様が弟を先にアメリカに渡し、時期が来たら呼び寄せるようにとお計らい下さったのではないかなあと想像しています。

また、初代会長様の頃からの信者さんのお一人は、元々は私の自教会の信者さんで、私の母にとっても可愛がられておられたそうです。その方が結婚してアメリカに行くことになった時、母から、「アメリカに行くなら、ガーデナ教会があるから、そこに行くように」と勧められたそうです。その方も先回りして待っていて下さり、今でもガーデナ教会に繋がって下さっています。亡き父や母の思い出話をその信者さんから聞かせて頂き、何か不思議なご縁を感じずにはおれません。私が通りやすいように、父と母が道をつけてくれていたようにも感じます。

このように考えると、私がかここにいるのは、全てが親神様・教祖のお導きであることは間違いのない事だと思いますが、果たして私がかここに来ることは、いつから決められていたのでしょうか？ 不思議でなりません。

稿本天理教教祖伝逸話篇「36 定めた心」の中に、

「一前略一 神が用に使おうと思召す者は、どうしてなりと引き寄せる 一中略一 用に使わねばならんという道具は、痛めてでも引き寄せる。悩めてでも引き寄せねばならん 一後略一」とあります。私も、親神様・教祖の深い思召しによって引き寄せて頂いた者の一人だと思います。引き寄せられたのには、きっと意味があるはずで。

私だけでなく、今ここにおられる皆さん方も、きっとそういったお導きを頂かれ、アメリカ・カナダの地で大事な御用をお勤めの事ではないかと思ひます。

教会で生まれ育った私が、教会へ嫁ぐことは大変だからと避けて通ってきたつもりが、まさか自分から会長を引き受けることになるとは思っていませんでした。きっと深い神いんねんがあったからだと思います。信仰五

代目ともなれば、いんねんも深いと思いますが、親々の徳もいっぱい頂いてほんとに結構だと実感しております。

会長にならせて頂いた時、ようぼくとしてこのアメリカで、今こそ「世界たすけ」をさせて頂くチャンスだと思い、ここにいる間に、一人だけでもおぢばにお連れしたいな～と思い念じておりました。そして2年前にその願いが叶いました。

おたすけをさせて頂いていたご婦人と日本帰国のタイミングが合いましたので、お声を掛けさせて頂き、わざわざ東京から来ていただき、おぢばへご案内し、教祖殿でおさづけを取り次がせて頂いた時は、本当に有難く涙があふれました。その方も喜んで下さり共に感激させて頂きました。また、その方が、ノルウェーに住むお姉さんにその事をお話したら、とても関心を持たれたようで、インターネットで「天理教」を検索して見て下さっているとのことでした。おぢばで蒔いた種がノルウェーまで飛んでいるとは、これも親神様・教祖のご守護に間違いないなあと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、もう一人のご婦人は、日本へ一時帰国の時、東京から島根県の方まで一人で旅行すると話をされたので、「それなら、途中天理を通るので、是非おぢばに帰って下さい」とお誘いしたら、本当にお一人でおぢばがえりをして下さいました。私がお案内できず残念でしたが、素直に参拝して下さいましたことを、とても嬉しく思いました。私以上に、親神様・教祖は待っていて下さり、何よりお喜び下さったに違いありません。一言のいをいかけの大切さを痛感した次第です。

道中にはたくさんの失敗もし、届かないながらも、こうしてたくさんのご守護を見せて頂き、日々通らせて頂いておりますが、寄る年波には勝てず、アメリカでの医療、保険などの問題もあり、健康面で会長として御用を続けていくことが難しくなって参りましたが、私にはまだ果たさなければならない



大きな御用が残っておりますので、教祖 140 年祭までは、何とか元気において頂き、会長としての職務を全うしたいと考えております。

私のいんねんがどれだけ納消できたかどうかは定かではありませんが、今は何も心配はしていません。11 年通ってきた重みが自信になっているからです。

教祖 140 年祭までの残り 7 か月間を、御存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂けるようしっかり勤めさせて頂き、年祭の時を喜び心いっぱい迎えたいと思っております。

最後までご清聴下さいまして本当にありがとうございました。





伝道庁連絡



6 月次祭

祭主 庁長
 扨者 岡崎マーロン 雪本善
 賛者 丹羽ハミルトン 野町ジョナサン
 指図方 長谷川邦昭
 神殿講話 渡邊京子（日）

教会事情

カリフォルニア教会 / 任命願、臨時祭典願
 おはこび予定：2025 年 7 月 26 日
 後任者：大西太一トニー
 奉告祭：2025 年 8 月 31 日
 イリノイ教会 / 任命願、臨時祭典願
 おはこび予定：2025 年 7 月 26 日
 後任者：高垣弘明
 奉告祭：2025 年 10 月 4 日

第 85 回アメリカ修養会

第 85 回アメリカ修養会は 2025 年 6 月 15 日（日）から 7 月 12 日（土）まで開講され、英語クラス 6 名の方が修了しました。期間中、講師やキッチン当番をおつとめくださった方々、誠にありがとうございました。

天理教語学院（TLI）日本語科出願

来年度（2026 年度）の出願に関して大幅な変更がありますので、お知らせ致します。

出願資格

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。
2. 出願時に「日本語能力試験 N5」または「N5 相当」の日本語能力を有する者。

出願に必要な書類として願書と共に日本語能力試験 N5、または N5 相当の日本語能力が必要となります。

- ・ TLI では、日本語能力 N5 以上を有しない出願予定者に対し、出願前の 5 月から日本語科が提案する教材を用いた自習機会を設け、8 月末までに実力認定試験を受験してもらい、その結果、TLI が N5 相当の日本語能力があると認定した場合に出願を受理する形とし、出願自体を妨げないように便宜を図っています。

願書の配布について：

- ・ 願書は 4 月 25 日よりダウンロード配布を開始していますので、天理教語学院の Website をご確認ください。
- ・ 同時に、事前学習及び実力認定試験に関する案内も行っていますので、Website をご確認ください。
<https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/>

教祖 140 年祭後の教会長御招宴

- 対象：直属教会長を除く全教会長 ※御招宴時点
 日時：2026 年 1 月 28 日～2 月 1 日 正午～13 時 30 分
- ・ 通訳の必要な海外教会長は、1/28 に出席予定
 - ・ 通訳の不必要な海外教会長は、割り当てがあれば 1/28 以外でもよい
 - ・ 案内状は 8/25 に直属担当者に配布予定

教人資格講習会、教会長資格検定講習会

8 月 27 日よりの教人資格講習会の受講予定者は 7 月末までに、又は 9 月 27 日よりの教会長資格検定講習会の受講予定者は 8 月末までに、アメリカ伝道庁までご連絡下さい。各々の講習会の受講者が 5 名以上であれば英語クラスの開講予定です。4 名以下であれば同時通訳、又は取り出しにて講習会が行われます。

教祖 140 年祭帰参報告書

アメリカ伝道庁としての教祖 140 年祭帰参報告書を作成しましたので、帰参予定の方は 10 月 1 日までに報告書の提出をお願いします。尚、右の QR コードより、Google Form にても提出可能です。



教祖 140 年祭【特別展示】

今秋より、教祖ゆかりの品を中心とした教祖 140 年祭「特別展示」を開催

日程：10/25・26、11/8・9・15・16・22～26・29・30、12/6・7・13・14・20・21・25・26

毎月 26 日は午後 1 時より開催

10/25 は午前中でのみの開催

立教 189 年（2026 年）の開催は後日お知らせ

時間：午前 10 時～午後 3 時まで

場所：おやさとやかた南右第 2 棟

天理教ホームページをご確認下さい（日本語のみ）。

<https://www.tenrikyo.org/se140/>

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



天理教ホームページ



海外部ホームページ

立教 189 年 1 月末教人資格講習会 教会長資格検定講習会開催日変更

願書受付日：1月23日、24日（従来通り）

開催期間：

教人資格講習会

【変更前】1月27日～2月10日 →

【変更後】2月1日～15日

教会長資格検定講習会

【変更前】1月27日～2月16日 →

【変更後】2月1日～21日

各会連絡

ふしん委員会

イーストホールの屋根の葺替え、および屋根縁の塗装、新しいとゆの設置をしました。

布教委員会

教会長・布教所長・出張所長の伝道庁月次祭当番を、今月から再開させていただきます。9月までの当番を以下の通りお知らせいたします。

7月：弓削ロバート、岡崎宏子

8月：林孝彦、田所レイ

9月：中富淳次郎、上杉浩司

広報委員会

・教祖140年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 kamishuyo@hotmail.com

林 takhayashi@gmail.com

・伝道庁ホームページにて、「祭典講話」、「SoulFire」の記録ビデオ等に加えて、三代真柱様の「喜びの日々」Joyousness day after day のオーディオブックが作成され拝聴できるようになりました。以下のQRコードからご視聴ください。また、年祭に向けて、教会本部ウェブサイトに掲載されている「Faith」（平野知三先生編集作）をPodcast風にて作成し「Stories inspired by Oyasama」として掲載中。是非、伝道庁ホームページをご覧ください。また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。



教化成委員会

・おやさと練成会小委員会

6月にベイクセールを行い、\$715のサポートをいただきました。今後の活動に活用させていただきます。

・プリセミナーを行うにあたり、岡崎宏子、森下エイミー、中川洋一の3名は、名東詰所のスタッフの方とzoomで顔合わせをし、プリセミナーを行う経緯や、滞在中の規則をお話しさせていただきました。

Future Path 委員会

・2025年8月30、31日に天理教アメリカ伝道庁にて、天理教原典勉強会（おふでさき、みかくらうた、おさしづ）を開催します。詳細は、アメリカ伝道庁ウェブサイト、本誌14ページをご覧ください。申込みの締め切りは8月1日までとなりました。

婦人会

・「みちのだい育み塾」

9月20日（土）午後1時 於：伝道庁

対象：16歳～49歳の会員

内容：「八つのほこり」に関する講話
グループトーク

講師：日本語、庁長 英語、雪本利清先生

少年会

・少年会キャンプ 6月20日（金）～22日（日）

・アメリカ団のこどもおぢばがえりは7月24～30日までの期間で開催予定です。また、海外少年ひのきしん隊は7月25～30日の期間で開催されます。

・少年会総会は8月16日（土）に開催します。伝道庁月次祭後、1時15分より神殿、または少年会ルームにておつとめ練習を行いますので、ご参加下さい。

・新生児や転入された少年会員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせ下さい。

・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきますましょう。

青年会

・アメリカ青年会総会を、6月14日（土）午前10時30分に開催しました。

・第99回天理教青年会総会は、10月25日（土）午後1時より本部中庭で開催されます。アメリカ青年会では、参加される方に交通助成を検討しています。助成の申請、お問い合わせは下記のアドレスまでお願いします。

seinenkainorthamerica@gmail.com

・アメリカ青年会の活動に関して、意見やアイデアを募集しています。

seinenkainorthamerica@gmail.com

雅楽おとまり会

雅楽おとまり会が6月12～13日にかけて伝道庁にて開催されました。

既に何人かのメンバーは、春秋の霊祭にて祭儀式への奉仕を経験していますが、今回は月次祭の祭儀式を想定し、それに合わせて奏楽を進める練習も行われました。



WE'RE ONLINE!

www.TenrikyoAmericaCanada.org

Stay Updated! Scan the QR code
with your camera phone.



携帯のカメラでQR
コードをスキャンし
て、アメリカ伝道庁
ウェブサイトの最新
情報をチェックし
てください！

CALENDAR



tenrikyoamericacanada.org/events-calendar

BLOG



tenrikyoamericacanada.org/blog-timeline

NEWSLETTERS



tenrikyoamericacanada.org/publications

SERMONS



tenrikyoamericacanada.org/sermons

**OYASAMA-INSPIRED
STORIES**



tenrikyoamericacanada.org/stories-inspired-by-oyasama

少年会キャンプ

少年会キャンプが6月20日（金）～22日（日）にかけて、Malibu Creek State Parkにて行われました。参加者は45名。少年会員16名、育成会員29名でした。





青年会総会

去る、6月14日(土)、青年会総会が開催されました。総会後には庁内にて、ベンチのペンキ塗り替えひのきしんを行い、夕方からは、大谷翔平選手の出場する野球観戦を楽しみました。



第 85 回アメリカ修養会

第 85 回アメリカ修養会は 2025 年 6 月 15 日（日）から 7 月 12 日（土）まで開講され、英語クラス 6 名の方が修了しました。





Tenrikyo Study Seminar

The Sacred Scriptures

*Take steps to enlighten yourself through
studying the Ofudesaki, Mikagura-Uta
and Osashizu*

天理教原典勉強会のご案内

天理教原典勉強会を8月30日及び31日（レイバー・デーの週末）の両日に、アメリカ伝道庁にて開催させていただきます。おふでさき、みかぐらうた、おさしづの三原典を勉強させて頂き、心の成人をさせて頂くまたとない機会です。

この勉強会では、東馬場郁生教授、林孝彦先生が講師をつとめられます。この勉強会に関する詳細及び申し込み書については、以下のリンクにあるアメリカ伝道庁ウェブサイトをご覧ください。

https://tenrikyoamericacanada.org/scripture_study_seminar_2025

勉強会は対面式で、英語で行われます。参加費は無料です。交通費に関しても一部援助があります。参加人数に限りがありますので、早急に申し込み書をご提出下さい。また、家族、友人の方々にも、この勉強会をご案内下さい。

メール：Tenrikyoprograms@gmail.com 電話：(323) 261-3379

Information packet



Online application form



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

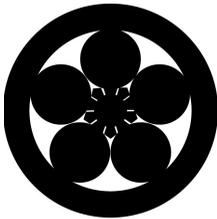
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.